

鳥取県立厚生病院

すずかけ

第54号 令和2年9月10日

コロナに負けない！！	1
病気を学ぼう！『脳梗塞』について教えて	2-3
オンライン面会開始！好評です！！	4
診療報酬改定 紹介状なしの受診はご注意ください	4
当院のX線テレビ装置で骨密度測定検査ができます	5
待望のすずかけサロン！～現在はお休み中～	5
番号でお呼びします	6
中部地震記録誌発刊	6
令和2年7月豪雨熊本でのDMAT活動報告	7
新しくなった外来治療室	8
職員の紹介、編集後記	8

いつも応援ありがとうございます！

一緒にがんばりましょう♪

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、これまでの日常の生活を送ることが難しくなっている中、みなさまも大変な思いをされているにもかかわらず、医療者にたくさんのあたたかいエールをいただきありがとうございます。私たちもがんばっています。一緒にがんばりましょう♪



病気を学ぼう！

『脳梗塞』について教えて

脳神経内科部長

村上 丈伸



脳梗塞は夏に多いのをご存知でしょうか。夏は汗をかいて水分不足になりやすく、血液もドロドロしてくるのが大きな原因だそうです。暑い夏を乗り越えた後の脳梗塞も心配されます。今回はそんな脳梗塞について一緒に学びましょう。

Q まず、脳梗塞について教えてください。

A はい。脳梗塞や脳出血、くも膜下出血をはじめとした脳卒中は、悪性新生物（がん）、心疾患に次いで日本人の死因の第三位であり、寝たきりになる原因の中では第一位となっています。高齢化率の高い鳥取県中部地区においてはとても重要な疾患です。脳梗塞の治療とリハビリについてお話しします。

Q 脳梗塞とはどんな病気ですか？

A 脳梗塞は、脳に栄養を送る動脈が詰まることで血液の流れが悪くなり、神経細胞が障害されて様々な症状が起きる病気のことです。脳梗塞には大きく分けて三つの病型があります。

種類	症状	原因
ラクナ梗塞	顔手足の麻痺、しびれ、 呂律不良、ふらつき	高血圧、糖尿病、 脂質異常症、喫煙、 大量の飲酒
アテローム血栓性 脳梗塞	強い片麻痺、強いしびれ、 嚥下障害、失語症	高血圧、糖尿病、 脂質異常症、喫煙、 大量の飲酒
心原性脳塞栓症	強い片麻痺、強いしびれ、 失語症、半側空間無視	心房細動

◇ラクナ梗塞は、脳内の細い動脈の動脈硬化によって生じます。細い動脈の障害のために梗塞巣も比較的小さく、症状は顔手足の麻痺やしびれ、呂律不良、ふらつきなどの症状がありますが、比較的軽くてすむ場合が多いようです。原因としては、高血圧や糖尿病、脂質異常症、喫煙歴や大量の飲酒歴が挙げられます。



◇アテローム血栓性脳梗塞は、太い動脈の内側にプラークができて内腔が狭くなり、そこに血栓ができることによって徐々に血流が途絶え、比較的広い範囲に脳梗塞が生じます。ラクナ梗塞と比べて症状の重いものが多く、



強い片麻痺やしびれ、嚥下障害、言葉が喋られない・理解できないといった失語症を起こすことがあります。治療を開始しても数日は症状が進行することがあります。原因はラクナ梗塞と同様に、高血圧や糖尿病、脂質異常症、喫煙歴や大量の飲酒歴が挙げられます。

◇心原性脳塞栓症は、心房細動という不整脈があると、心臓の左房内に血流のよどみが生じ、血栓ができやすくなります。その血栓が血流に乗って移動し、脳動脈や頸動脈を閉塞することにより、広範な脳梗塞を引き起こします。強い片麻痺、しびれ、失語症だけでなく、視野の半分が見えない半盲や見えているのに認識できない半側空間無視といった症状を呈することがあります。元気だった人に突然症状が出るのが特徴です。近年の超高齢化により、心房細動を持つ方が増えてきていますので、心原性脳塞栓症を発症する患者さんも増加しています。



◇その他の特殊な脳梗塞として、動脈のプラークが塞栓となる動脈原性脳塞栓症やがん患者さんに脳塞栓症が生じるトルソー症候群、卵円孔開存症による奇異性脳塞栓症、塞栓源不明の脳塞栓症（多くは調べても捉えられな

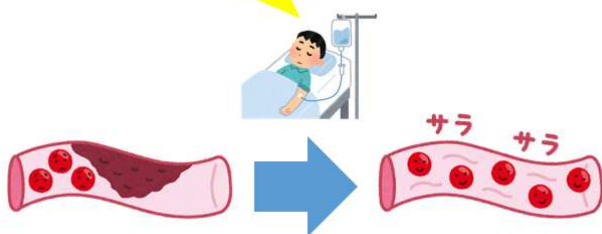
かった心房細動が原因とされています) という病態があります。

Q 治療について教えてください。

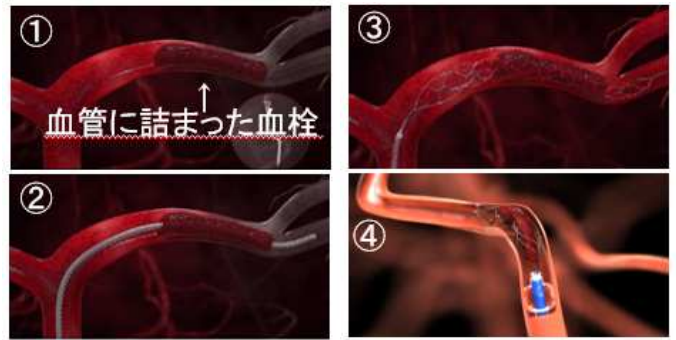
種類	治療方法
ラクナ梗塞	抗血小板療法 (アスピリン、クロピドグレル、シロスタゾール)
アテローム血栓性 脳梗塞	
心原性脳塞栓症	抗凝固療法 (ヘパリン、ワルファリン、DOAC)

A 急性期治療や再発予防治療は、背景にある病態によって異なります。動脈硬化が原因のラクナ梗塞やアテローム血栓性脳梗塞では、アスピリンをはじめとした抗血小板療法を選択します。心房細動による心原性脳塞栓症では、ヘパリンやワルファリン、DOAC という新規抗凝固剤を用いた抗凝固療法を行います。さらに、脳梗塞を発症して 4.5 時間以内の症例、または明確な発症時刻が特定できないが、MRI 検査で発症して間もないことがわかる症例には、血栓溶解療法 (rt-PA) という、詰まった血栓を積極的に溶かして症状を良くする治療法があります。当院でも rt-PA を速やかに投与できる体制を確立して、2018 年度は rt-PA を行った症例が年間 3 例でしたが、2019 年度では 18 例と 6 倍の件数になっております。rt-PA を行ったことにより、症状が完全によくくなって退院された方もいらっしゃいました。

4.5時間以内



また、rt-PA では治療効果が不十分と考えられる症例においては、カテーテルを用いて詰まった血栓を取り除く血栓回収術もできるようにしています。



↑カテーテル血栓回収術

Q リハビリについて教えてください。

A 脳梗塞によって起きた片麻痺や嚥下障害、失語症などに対して、リハビリを行い、機能回復・維持に努めます。特に脳梗塞においては病状が許す限り発症日から積極的に機能訓練を行います。リハビリは、脳梗塞によって障害された神経回路を代償するために、残存する神経ネットワークの再構築を促すことを目的としています。しかし多くの場合、リハビリを行ってすぐに効果が出るわけではなく、長い期間をかけて根気強く訓練を続けなければいけません。



鳥取県中部地区では「脳卒中地域連携パス」を用いて、回復期リハビリ病棟のある病院と綿密に連携をとり、情報共有することで、切れ目のないリハビリを提供できる体制を整えています。



以上、脳梗塞に関する説明と当院や地域で取り組んでいる治療、リハビリについてご紹介しました。これからは患者のみなさまにとってよりよい医療が提供できるように努めてまいりますのでよろしく願いいたします。



オンライン面会開始！ 好評です！！

看護局 湯浅 良恵

6月よりZoomアプリを使った「オンライン面会」を開始いたしました。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、当院でも入院患者さんへの面会を制限しています。このため、「長く夫の顔を見て話をしてない」、「入院している母に会いたいが、東京にいるので帰れない」などの声がありました。入院されている方の中には、家族に会えない寂しさや不安がありストレスを感じられる



こともあったと思います。短い時間ですが、少しでも家族との良い時間が作れますようオンライン面会をご活用ください。



オンライン面会の様子

ご希望の方は、事前に電話予約してください（0858-22-8181）。アプリのダウンロードの仕方からご説明します。インターネット環境のない方も来院して別室にてオンライン面会可能ですので、ご相談ください。



診療報酬改定 紹介状なしの受診はご注意を



医事課 前田 洋美

令和2年10月1日から非紹介患者加算料（選定療養費）の額が変わります。

200床以上の地域医療支援病院では、紹介状なしの受診に医療費とは別に一定額以上の金額を患者さんにご負担いただくことが義務付けられています。この制度に基づき、当院ではこれまで1,650円であった選定療養費が5,500円（助産5,000円）に変わり、さらに再診時選定療養費という料金が追加になりました。

初診時選定療養費

他の医療機関からの紹介状を持たずに来院された初診の方

5,500円（助産は5,000円）

再診時選定療養費

当院が他の医療機関へ紹介した方が本人の意思で再度当院を受診した場合

2,750円（助産は2,500円）

※救急患者、公費負担医療の対象患者に該当する場合は除きます。

当院では地域の診療所、病院との連携を大切に行っています。かかりつけ医（ホームドクター）を持ちましょう。



当院のX線テレビ装置で 骨密度測定検査ができます

中央放射線室 坂口 和也

これまで当院では、超音波を使用して骨密度検査を行っていましたが、このたびX線テレビ装置で骨密度測定検査ができるようになりました。信頼度の高いDXA法を用いて、腰椎及び股関節付近を約10秒程度スキャンするだけで骨密度を測定することが出来ます。被ばく量についても、胸部X線撮影の四分の一程度の低い被ばく量で行える検査です。

現在、近年の高齢化社会における健康寿命を伸ばすことに注目が集まっています。その中でも高齢者の骨折が大いに問題となっており、股

関節部の骨折から寝たきりになってしまう、という方も珍しくありません。

骨折を未然に防ぐのは簡単な事ではありませんが、日頃から自分の体の状態を知っておくのは重要なこととなります。骨密度検査をすることで『骨の健康状態』を知ることができます。



検査をしている様子

待望のすずかけサロン！ ～ 現在はお休み中 ～

がん相談支援センター 安田 桂



令和2年5月に患者支援棟がオープンし、すずかけサロン（がん患者サロン）も1階に引っ越しました。新型コロナウイルス感染防止のため、3月からサロンはお休みしていましたが、7月から再開しました。

すずかけサロンは、がんに罹患した患者さんやご家族、患者さんを支える方のための場

です。当院通院中の方だけでなく、他の病院で治療中の方や、治療を終えられた方も参加され、がん相談支援センターの看護師や臨床心理士がサポートしています。また同じ病気をした仲間が病気や治療中の不安な思いを共有したり、副作用への工夫を当事者の視点で話し合うことで、病気との付き合い方や安心感、治療に向かうちからを得たり、お互いに『話す』-『聴く』の関係を通して、参加者同士の支え合いの場になっています。参加者の希望でお花見、クリスマスリース作りなど季節のイベントや、疼痛緩和診療科部長の堀先生の勉強会を企画しています。

現在、県内での新型コロナウイルス患者の増加に伴い、8月より再度サロンはお休みしています。再開は、当院のホームページやすずかけサロンだよりでお知らせします。

すずかけサロン（患者支援棟 1階）
毎月第1、3火曜日 午後2時から午後4時
***現在サロンはお休みです**

番号でお呼びします

～プライバシー配慮の観点より～

当院では、皆様のプライバシーに配慮し、番号でお呼びすることに統一しました。



これまでお名前でお呼び出ししていた中央処置室（採血）中央検査室・会計・救急外来などでも、番号でお呼びさせていただきます。

受付時にこちらの受付票が2枚発行されますので、1枚はお手元にお持ちになり、番号を確認してください。

もし、紛失された場合は、番号をお伝えしますのでお近くの職員までお申し付けください。また、番号でお呼びしても応答がない場合はお名前をお呼びしますのでご了承ください。



中部地震記録誌発刊

救急・集中治療室部長
浜崎 尚文



平成28年10月21日に発生した鳥取県中部地震から約4年が経過しました。

その後、当時の状況確認と対応を検証する作業を行ってきました。その作業の過程において、事実を記録し将来に生かすために記録誌を作成した方がよいと考え、皆川院長に提案したところ快諾を得て、この度、発刊することができました。記録できた写真、新聞記事、発災後に行った職員アンケート結果などを掲載しています。うまく対応できた部分だけでなく、反省すべき点があったことをそのまま記録すること

が重要と考え、事実をありのままに記載することに努めました。職員アンケートは、当時の職員のほとんどが回答し、生の声をそのまま記録することに役立ちました。記録誌においては、文章が多くなっていますが、山本司書の工夫で文字のフォントや大きさを変化させることで読みやすくしています。



みなさんに見ていただけるよう、院内図書室に保管しています。また、病院ホームページにも掲載し、広く閲覧ができるようにしておりますので、是非、ご一読ください。

鳥取県立厚生病院



令和2年7月豪雨

熊本でのDMAT活動報告

DMAT隊員（臨床工学技士）山根 雄介

熊本での豪雨災害医療支援の為、鳥取県からの要請で7月10日から12日の3日間、現地にて医療支援活動を行いました。こういった災害支援に赴く際はDMAT（通常は医師1名、看護師2名、業務調整員2名）というチームで活動します。なお、業務調整員は主に資機材、通信機器等の管理、現場においては情報収集、集約、発信など様々な業務を行っています。私はこの業務調整員として県からの要請後直ちに出勤準備に取り掛かりました。

7月9日朝8時に厚生病院から熊本に向けDMAT車両で出発しました。被災地に新型コロナウイルスを持ち込むことがないようにPCR検査を実施してから出発しました。



移動中もDMAT活動においては重要な時間であり、車内では参集地点及びアクセス方法の確認、現在活動中の他県DMATの活動状況把握、その上で当隊にどのような役割が与えられるのかを検討しながらの移動となりました。PCR検査の結果は移動中に病院から連絡があり全員の陰性を確認しました。前泊地の熊本市へ道中トラブルなく無事到着しました。

翌日、人吉市人吉保健所に8時30分参集に向けて6時に前泊地を出発しました。雨はほぼ降り続けている状況でした。予想外に、人吉保健所までに交通規制はありませんでした。ただ、人吉市内に入ると車窓から泥だらけの街並み、増水した球磨川、転落した橋などが視界に飛び込んできて、豪雨災害の爪痕を感じました。その時も雨が降り続けていたので、



二次災害がおきないか不安になりました。人吉保健所に到着後全体ミーティングを経て当隊はさくらドーム（総合運動公園内）への派遣が決定しました。

さくらドームは人吉市に隣接する球磨村にある

総合運動公園の一施設で野外の施設でした。孤立集落から自衛隊機で救出された人が集められ、ここから避難所や親族の家、医療が必要な人は病院へ搬送されていくSCU（広域医療搬送拠点）のような役割を担っていました。警察、消防、自衛隊の他、役所や銀行、支援物資の保管・配布場所にもなっており周辺住民の方々もたくさんおられました。発災当初はここで寝泊まりされていた方も多くおられたようです。DMATはSCUでの診療、搬送先及び搬送手段の選定、周辺避難所や集落を巡回し医療ニーズの調査及び医療サービスの提供等を行っていました。当隊はSCU活動を担当し他県DMATやモバイルファーマシー（移動薬局）の方と協力して救出者の対応にあたりました。その日は当直業務も担当し夜間こられた方の対応や車中泊されている方に対してDVT（深部静脈血栓症）予防の為の啓発活動を行いました。11日、12日もさくらドームでのSCU活動に従事し、12日午前中をもって当隊は熊本での活動を終了し帰路につきました。



被災地に行ってみて、自然災害の恐ろしさを実感しました。家を失った方もたくさんおられました。その方たちが大変な思いをされているにも関わらず明るくされていて、支援に行った自分の方が元気をもらいました。今回経験したことを活かし、少しでも被災地の方の心情に寄り添った活動ができるDMATを目指していきます。



新しくなった

外来治療室

外来副看護師長 杉本 咲月

外来治療室は、患者数・治療件数が増加し、治療を受けられる方のニーズも多様化してきたことから、令和2年4月に新設された患者支援棟の2階に移転しました。2階フロア全体が外来治療室になっており、内装は白と緑、木目を基調とした落ち着いた色合いで、10床に増えたベッド間のスペースも広く快適に過ごしていただける空間になっています。



新しくなった外来治療室には、移転前の外来治療室にはなかった待合スペース、診察室（1室）、個室（1室）、外来治療室で使用する薬剤の調剤専用のサテライト薬局を完備しています。待合スペースには副作用のセルフケアに有用な各種パンフレットを備えており自由に持ち帰っていただけます。また、診察室や個室があることで治療を受けられる方のニーズに応じた細かな対応がしやすくなりました。



さらに、サテライト薬局で薬剤調製を行うことにより円滑な治療実

施ができるようになったことなど、移転によって大幅に治療環境が改善されました。

外来治療室は、配属されている4名の専任看護師はもちろん、各科の医師、薬剤師、管理栄養士、施設管理担当者、臨床検査技師など多くのスタッフの協力で成り立っており、外来で治療を受けられる皆さまが安心・安全・安楽に治療を受けられるよう日々協力・連携を図っていますので、安心してご来室ください。



職員の紹介

(異動者) 5月31日
産婦人科 大川雅世

(新任者) 6月1日
産婦人科 圓井孝志



【編集後記】

“暑い暑い”日が続き、お祭りのない夏でした。しかし熊本豪雨災害に対する医療支援を行ったスタッフ達、病院救急現場で日常診療を支え続けるスタッフ達、加えて新型コロナウイルス感染との闘いに挑むスタッフ達。全スタッフは“熱い熱い”想いでこの夏を過ごしました。今年の夏は誌上納涼会です。

すずかけ 54号片手に、ビールは注がれましたか？表紙のスタッフ達の意気揚々たる多くの笑顔とともに“乾杯”。

(広報委員長 紙谷秀規副院長)

